

見守る目育む芽 36

目次

- 2P 安心ネットづくりのための広報イベント報告、西川町を元気にする会“GEN(げん)”の受賞について
- 3P 県民運動各地区実践レポート(特集:生徒と地域の大人の対話会)
- 4P お知らせ


大人が
子ども
変われば
変わる

いじめ・非行をなくそう
やまがた県民運動

1 あいさつ・見守り運動
オアシス(おはよう、ありがとう、失礼します、すみません)運動等

2 モラル・マナーの向上運動
ゴミ・空き缶・吸殻を捨てない、拾う、持ち帰る等

3 子どもを事故や犯罪等から守る運動
地域の危険箇所の点検や子ども達のたまり場の見回り等



運動の基本方針

- ◎学校、家庭、地域が連携し、みんなでいじめ・非行を許さない社会づくりをすすめていこう。
- ◎いじめを受けて悩んでいる子どもたちが相談しやすい環境をつくっていこう。

いじめはしない!させない!見逃さない!

ネットの危険から子どもたちを守るために、保護者ができること

～「春のあんしんネット・新学期一斉行動」実施中!～

近年、スマートフォンや携帯型ゲーム機等を使って、多くの子どもたちがSNSやオンラインゲーム等を利用するようになってきました。その一方で、長時間利用による生活習慣の乱れや、不適正な利用により、犯罪の被害者や加害者となったり、いじめやプライバシー上の問題など思わぬトラブルに陥るといった深刻な問題も発生しています。

山形県教育庁が平成28年度に実施した全小中学生を対象とする定期調査(後期)によると、インターネットに接続できる機器の所有率は小学生で67%、中学生で90%まで普及しているものの、有害サイト等への接続を防ぐフィルタリングを「している」「しているものもある」と回答したのは小学生で42%、中学生で48%と設定率が半数に満たない状況です。

そこで、多くの子どもたちが初めてスマートフォン等を手にする卒業・入学の時期(2月～5月)に、「春のあんしんネット・新学期一斉行動」として国や県の関係機関などが連携しながら、インターネット接続機器やSNS等の安全・安心な利用を働きかけています。

家庭での積極的な取り組みと見守りが子どもたちを守ります。インターネット接続機器やSNS等のリスクについて家族一緒に話し合い、家庭におけるルール作りやフィルタリングの設定を行いましょう。

保護者ができる3つのポイント

- 1 被害者にも加害者にもしないために、適切なインターネットの利用を促しましょう。**
子どもの成長に合わせたインターネットの利用を親子で話し合しましょう。
- 2 家庭のルールを親子一緒に作りましょう。**
実社会でやっていけないことは、インターネット上でもやってはいけません。子どもにルールやマナーを守る習慣を身に付けさせましょう。
- 3 不適切な情報や危険な出会い等を防ぐために、フィルタリングを活用しましょう。**
フィルタリングは、有害サイトや悪質なメールをブロックすることができます。年齢や使い方によりレベル設定ができ、利用したいサイトの個別設定もできます。上手に使って子どもの安全を守りましょう。

家族と一緒に話し合おう! インターネット利用のルール作り!

スマートフォン等のインターネット接続機器を購入したら、家族で話し合っ、各家庭の実情に応じたルールを作りましょう。

ルール作りの例

- 名前、顔写真、学校名などは書き込まない。
- 友達にメールやメッセージのやり取りを強要しない。
- 利用する場所や時間帯を決める。
- パスワードは保護者が管理する。
- トラブルの時はすぐに保護者に相談する。

子どもの意思を尊重して、無理のないルール作りを心がけましょう。話し合いを重ねながら、「スマートフォンや携帯型ゲーム機などは相談しながら使うもの」ということを子どもにわかってもらうのが何より重要です。

お知らせ

毎月第3日曜日は「家庭の日」

子育てにおいて家庭が果たす役割は大変重要です。そこで家族のきずなを大切にす日として、毎月第3日曜日を「家庭の日」と定め、月別の取り組みテーマを提案しています。

～家族の語らいや親子のふれあいをとおして、子どもを育む家族の素晴らしさや家庭の大切さを家庭や地域で見つめ直しましょう～

4月からのテーマ

- 4月「社会のルールやマナーを身につける」
- 5月「家族と一緒に過ごす時間を増やす」
- 6月「家族みんなで自然に親しむ」

山形県青少年育成県民会議の活動について 御理解と御協力をお願いします!


青少年のための環境づくり懇談会



山形県青少年育成県民会議では、青少年の健全な環境を整えるため、書店、カラオケ店、携帯電話会社などの関係業界・団体と毎年「青少年のための環境づくり懇談会」を開催しています。今年度は、平成28年12月9日に県庁講堂で関係者約70名が一堂に会して開催しました。

会議は、はじめに県の各担当者から、少年補導、いじめなどの現状の報告があり、続いて、インターネットに関わるトラブルの状況について質疑が行われました。その後、「青少年のための環境づくりに関する申し合わせ事項」を採択し、関係業界がこれに基づき自主規制を行い、青少年を取り巻く環境の浄化に一層取り組むことを申し合わせました。

青少年育成国民運動 50周年感謝状



青少年育成の国民運動が始まってから今年度で50年の節目にあたることから、このたび、内閣府から「感謝状」が授与されました。

これもひとえに青少年育成関係の皆様これまでの御尽力と御労苦の賜物と思えます。これからも、青少年健全育成の一層の推進について、御理解と御協力を賜りますようお願いいたします。

★県民会議の活動については、こちらホームページをご覧ください。

URL <http://yamagata-seishonen.jp>

山形県青少年育成県民会議
いじめ・非行をなくそう
毎月第3日曜日は家庭の日です。

申し込み先

山形県青少年育成県民会議
TEL: 023-630-2101
FAX: 023-632-8238

山形県青少年育成県民会議 入会のお誘い

当会議では、次世代を担う青少年の健全な育成を図るため、「大人が変われば子どもも変わる」県民運動や、いじめ・非行をなくそう、県民運動を展開しています。活動や趣旨にご賛同の協力いただける新規会員の方を募集しております。

機関誌をご覧になりました。ご加入をお願いいたします。

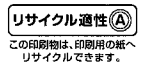
☆現在の会員数(二四三八)

☆会員の種類と会費

- ・特別会員(二〇五万円)
- ・賛助会員(二〇五千元)
- ・団体会員(二〇千元)
- ・個人会員(二〇千元)

☆現在の会員数(二四三八) 会員の皆様には機関誌をお送りするとともに特別会員は機関誌及び総会資料に、賛助会員は総会資料にお名前を掲載させていただきます。

※SNS・・・ソーシャル・ネットワーキング・サービスの略。登録するとインターネット上で友人などと交流することができる。(例:LINE、Facebook、Twitterなど)



県民運動 各地区実践レポート

～特集～ 生徒と地域の大人の対話会

“いじめ・非行をなくそう”やまがた県民運動の一環として、今年度より各地区において子どもと大人が一緒になっていじめ防止のために何ができるのかを考える対話会を実施しました。

❖ 明るい未来を築くためのワークショップ

村山地区



「むらやま教育の集い」の開催と合わせ、11月19日に村山市を会場に実施しました。まず、村山市内の各小中学校の児童生徒が、「学校をよくするために」「いじめ・非行をなくすために」など、学校の一員として頑張っている取組みを紹介しました。次に、子どもたちの真剣な態度に触発され、家庭や地域の方から活発な質疑や意見が出されました。最後に、まとめの発表をし合い、交流を図りました。各市町、各地域には、これまでの独自の取組みがあり、それらを活かしながら今後も連携を図り、より充実した会にしていきたいと考えています。

■村山総合支庁子ども家庭支援課
佐藤文昭・坂本澄子

❖ 温かい関係づくりを目指して

最上地区



12月17日に最上地区青少年育成懇談会を、新庄市民プラザで開催しました(高校生30名、大人48名が参加)。今年度は、「生徒と地域の大人の対話会」を兼ね、「人と人とのいっしょな関係を築くには?～いじめをなくそう～」をテーマに、4グループに分かれ懇談を行っています。いじめの現状やその背景にあるもの等が話し合われたほか、人と人がつながり支えあうことの大切さなどにも話が広がりました。高校生から「大人たちに自分の考えを知ってもらえてよかった。もっと大人の人たちの話を聞けたらよかった。」等の感想が寄せられています。

■最上総合支庁子ども家庭支援課
笹原啓一

❖ 一緒に考える「楽しいコミュニケーション」

置賜地区



10月13日、米沢市立南原中学校を会場に、米沢地区少年補導員連絡協議会、少年非行防止地域ネットワークPeace of Minamiharaと共催で「対話会」を開催しました。全校生93名と大人30名が22の班をつくり、ワークショップをとおして「ネットでのコミュニケーション」について考えを交流しました。講師の高橋誠氏(LINE 公共政策室)の卓越したリードと生徒の皆さんの積極的な参加により、和やかな雰囲気の中で活発な話し合いが行われました。まとめとして班毎に、「気をつけて 相手の気持ちと ネットマナー」といった標語をつくり発表し合いました。

■置賜総合支庁総務課
南齋朋子・鈴木正人

❖ 心のつながりを大切に、青少年を支え、育む

庄内地区



庄内では従来から関係機関団体が中・高校生と大人の対話会を積極的に開催しています。中でも、今年で8回目を迎える鶴岡田川地区の「高校生対話会」は、高校生が主体的に喫緊の課題をテーマに取り上げ、少年補導員や大学生、教員、警察等とともにグループ討議を行うものです。また、鶴岡市羽黒地域の「はぐる大家族会議」、同藤島地域の「藤島魂ぶっちゃけトーク」では中高生と大人がつながることがいじめ・非行防止になることを確認しました。酒田飽海地区でも「高校生と大人の対話会」が開催され、対面会話の大切さについて意見交換を行いました。

■庄内総合支庁子ども家庭支援課
太田英一・瀬尾儀雄

インターネットの約束 ふれあいイベント!開催

平成29年2月12日、イオンモール山形南にて、「インターネットの約束 ふれあいイベント!」が開催されました。インターネット利用に起因する犯罪被害等の防止とネットモラルの向上を目的として県警察本部が主催し、山形県や総務省東北総合通信局、安心ネットづくり促進協議会などの関係機関・団体から約30名が参加して、インターネットの適切な利用に向けた広報・啓発が行われました。

会場では、サイバーセキュリティ体験型ゲームや携帯型ゲーム機のペアレンタルコントロール設定など、参加者が体験しながらインターネットの安全な利用を学べるコーナーなどが設けられ、青少年が安心してインターネットを利用できる環境をつくるには、インターネット接続機器やSNS等のリスクについて家族で話し合い、フィルタリングの設定や家庭におけるルール作りが重要であることなどを広く呼びかけました。

参加者からは「最近では、スマートフォンだけでなく、携帯型ゲーム機や音楽プレーヤーなどからも簡単にインターネットにつながることから、トラブルに巻き込まれないよう正しい使い方について家族できちんと話し合っていきたい。」などの声が聞かれました。



西川町を元気にする会“GEN” 内閣府特命担当大臣表彰受賞!!

今年度、地域と若者の絆づくりに取り組む西川町の若者団体「西川町を元気にする会“GEN”(げん)」が、「内閣府特命担当大臣表彰」を受賞しました。内閣府が実施する「子供と家族・若者応援団表彰」に各都道府県から推薦された候補者のうち、子どもや若者を育成支援する活動に特に顕著な功績があったと認められる団体などを表彰するもので、今回、当団体が選ばれました。

GENが活動を始めたきっかけは、町の高齢者がつぶやいた「若者の元気な姿が見えない」という言葉でした。若者が元気に活動することで地元を元気づけたと考え、中学校の同級生8名で平成22年7月に結成し、以降青年層はもちろんのこと、幅広い世代が関わりを持てるよう、自主的な活動を展開してきました。「おらほの町一日満喫ツアー」や「グランドゴルフ・GENカップ」などの自主企画イベントの開催をはじめ、地域行事やボランティア活動にも積極的に参加し、若者の地域への誇りや愛着心の向上、そして町全体の元気づくりに取り組んでいます。

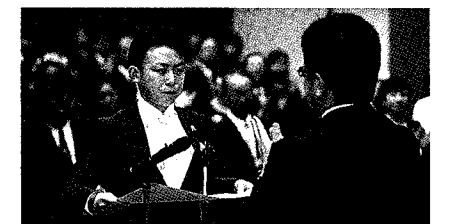
中でも、平成25年から開催している若者交流イベント「西川夏の陣・冬の陣」は、夏は月山湖でのカヌー体験、冬はブナ林の中でのスノーシュー(西洋かんじき)トレッキングといった町の豊かな自然を活かした体験活動を通して、地元の魅力を感じてもらい取組みとして、参加者に好評を得ています。町内の若者にとどまらず、町外の同世代の若者との交流にもつながっており、地域活性化に大きく貢献しています。



このような優れた成果が評価され、受賞に至りました。代表の和賀さんは今回の受賞を受け、「この度、『内閣府特命担当大臣表彰』をいただき、メンバー一同とても嬉しく思っています。これまでGENを支えてくださったすべての方々に感謝の気持ちで一杯です。GENは結成

6年目を迎え、少しずつ地域の皆様に認識して頂けるようになったのではないかと感じております。しかし、メンバーや参加者のライフステージの変化に伴い、イベント参加人数が減ってきているのが現状です。今後は参加者を増やす工夫をしながら、無理のない活動を続けていきたいと思っております。また、イベントに参加の際には『西川町っていいね!』と言ってもらえるよう、地道に活動を続けて、GENの活動理念を理解していただきたいと思っております。これからも、『自分たちが楽しむ!』を基本に活動をしていき、息の長いグループで有り続けたいと思っています。」と語ってくれました。

今回の受賞を契機に、GENの活動が一層発展するとともに、地域との温かい絆づくりに向けた取組みが県内外にも波及していくことが期待されます。



団体紹介



西川町を元気にする会“GEN” (代表:和賀光さん)

西川町にて、地域と若者の絆づくりや町の活性化に取り組んでいる。平成22年の結成以来、地元の自然を活かした若者交流活動等を中心に、現在は20~30代の22名の会員で活動している。